

令和3年度入学生シラバス

目次

令和3年度入学生教育課程	1
科目選択の流れ	2
2年次選択科目について	3
3年次選択科目について	4
1年次シラバス	5
2年次シラバス	15
2年次選択科目（ユニット）	27
2年次選択科目（プラスワン）	33
3年次シラバス	40
3年次選択科目	53

埼玉県立皆野高等学校

令和3年度入学生教育課程

1 年次		2 年次		3 年次	
単位	科目	単位	科目	単位	科目
1	国語総合	1	現代文 B	1	現代文 B
2		2		2	日本史 A
3		3		3	
4		4	世界史 A	4	
5	現代社会	5	数学 A	5	政治経済
6		6		6	物理基礎 地学基礎
7	数学 I	7		7	
8		8	生物基礎	8	体育
9	化学基礎	9	体育	9	
10		10		10	
11		11	保健	11	コミュニケーション 英語 II
12	体育	12	音楽	12	
13		13	美術	13	
14		14	書道	14	家庭総合
15	保健	15	コミュニケーション 英語 II	15	
16	コミュニケーション 英語 I	16		16	総合実践
17		17	家庭総合	17	
18		18	ビジネス実務	18	
19	ビジネス基礎	19		19	経済活動と法
20		20	ユニット A	20	
21	簿記	21	ユニット B	21	選択
22		22		22	
23		23	プラスワン	23	
24		24		24	課題研究
25	情報処理	25	L H R	25	
26		26		26	
27		27	L H R	27	
28		28		28	L H R
29	L H R	29	L H R	29	
30		30		30	L H R

2 年次選択科目

ユニット名	ユニット A	ユニット B
会計ユニット	財務会計 I	原価計算
流通ユニット	マーケティング	文書実務
情報ユニット	ビジネス情報	I C T 活用
		文書実務

プラスワン	
古典 A	英語表現 I
簿記	情報処理
プログラミング	文書実務
ビジネスコミュニケーション	

3 年次選択科目

選択（商業科）			選択（情報処理科）	
国語表現	地理 A	数学活用	ビジネス情報管理	
英語表現 II	ビジネス経済	財務会計 II		
電子商取引	生活と福祉	フードデザイン		

課題研究
会計
情報処理
流通

科目選択の流れ

1. 入学許可候補者説明会（3月下旬）

リーフレットをもとに、入学後の科目選択について説明します。

2. 教育課程オリエンテーション（4月下旬）

LHRの時間に、シラバスを使って説明します。

3. 二者面談（5月）

担任がオリエンテーションを行います。

進路指導を含めた2・3年次の科目選択希望の調査を行います。

4. 第1回ユニット選択調査の実施（6月上旬）

2年次の選択群の決定と3年次の科目選択の予備調査を行います。2年次の選択群のうち、情報ユニットを選んだ場合、3年次に情報処置科の選択ができます。調査結果によっては、人数の調整が必要になる場合もあります。

5. 三者面談の実施（6月中旬）

科目選択調査票をもとに、保護者を交えて担任と話し合います。

6. 二者面談の実施（12月）

LHRや個別指導を通して、教育相談を行います。

7. 第2回ユニット選択調査の実施（1月）

2年次におけるユニット選択の最終決定と3年次の科目選択の予備調査を行います。

※上記は2年次科目選択の流れですが、3年次の科目選択もほぼ同じ手順で行われます。

《 2 年 生 》 3つのユニットから希望のコースを、さらに進路希望により1科目を選択します。

共通履修

普通科目

現代文B	3
世界史A	2
数学A	2
生物基礎	2
体育	2
保健	1
芸術	2
コミュニケーション英語Ⅱ	3
家庭総合	2
普通教科計	19

ユニット選択必修

会計ユニット（6単位）	財務会計Ⅰ	3
	1年生の時の簿記を発展させたものです。原則として全商簿記検定の内容を学習します。	
流通ユニット（6単位）	原価計算	3
	製造業における原価計算および簿記に関する知識と技術を学び、原価について理解を深めます。	
情報ユニット（6単位）	マーケティング	3
	市場調査やその報告など、ビジネス基礎で学んだ流通の基礎を活用しながら経営の仕組みについて学びます。	
共通選択	文書実務	3
	プレゼンテーションソフト、ワープロソフトを活用して作品を製作し、ビジネス文書実務検定取得をめざします。	

プラスワン

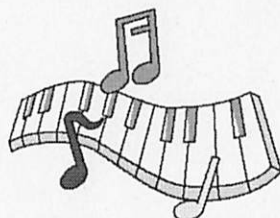
情報処理	2
情報処理機器の利用技術を学び、情報処理検定の取得をめざします。	
文書実務	2
プレゼンテーションソフト、ワープロソフトを活用し、作品を製作します。	
簿記	2
商業科目の基礎科目である簿記2級の資格取得をめざします。	
情報処理	2
情報処理機器の利用技術を学び、情報処理検定の取得をめざします。	
ビジネスコミュニケーション	2
社会人として必要なマナー、知識を身につけます。秘書検定3級の取得をめざします。	

商業科目

ビジネス実務	2
--------	---

情報ユニット（6単位）	共通	ビジネス情報	3
	アプリケーションの活用応用能力を身につけ、ITパスポートの受験に備えた学習を行います。		
共通選択	選択	ICT活用	3
		ビジネス情報で学習した内容をさらに進め、全商情報処理検定やITパスポートの受験をめざします。	
共通選択	選択	文書実務	3
		プレゼンテーションソフト、ワープロソフトを活用して作品を製作し、ビジネス文書実務検定取得をめざします。	

プログラミング	2
Java・アプリケーション（3D）を学習し、情報処理の高度な能力を身につけます。	
簿記	2
情報処理を学びながら、商業科目の基礎科目である簿記2級の資格取得をめざします。	



LHR	1
-----	---

3つのユニットすべての選択者がプラスワンとしてどちらかを選べます。	古典A	2
	長い歴史を持つ古典に触れ、基本的な知識や文法を身につけながら、日本古来の文化を味わいます。	
	英語表現Ⅰ	2
	スピーキングとライティングの力を付けることをめざします。	

目標とする取得資格

全商簿記検定1級

全商ビジネス文書実務検定1,2級
全商情報処理検定1,2級（ビジネス情報部門）

全経簿記検定2級

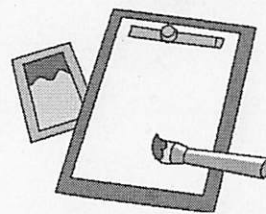
全商ビジネス文書実務検定1,2級
全商情報処理検定1,2級（ビジネス情報部門）

秘書技能検定3級
ビジネス実務マナー検定3級

全商情報処理検定1,2級（ビジネス情報部門）
ITパスポート

全経簿記検定2級

全商ビジネス文書実務検定1・2級



共通履修計	22	ユニット選択計	6	プラスワン選択	2
-------	----	---------	---	---------	---

《 3 年 生 》 それぞれの進路目標に沿った科目を選択します。

将来の進路は多彩

共通履修

普通科目

現 代 文 B	2
日 本 史 A	2
政 治 経 済	2
選 択	
物理基礎	2
地学基礎	
体 育	3
コミュニケーション 英 語 II	3
家 庭 総 合	2
普通教科計	16

商業科目

総 合 実 践	4
経 済 活 動 と 法	3
課 題 研 究	
簿記	3
流通	
情報	
専門教科計	10

LHR 1

共通履修単位計 27

商業科選択科目群

国 語 表 現	進学希望者が選択します。進学に必要な小論文や受験対策用の内容を学習します。	3
地 理 A	世界や日本の地理的特徴、文化の違いを学ぶとともに、地域（秩父・皆野）についての研究（フィールドワーク等）を行い、地域の発展について考察する。	
数 学 活 用	計算が好きで、数学に興味を持つ生徒が選択します。数学の一般教養を高め、公務員の受験問題にも挑戦します。	
英 語 表 現 II	スピーキングとライティングの力をつけることを目標とします。自分の考えなどを話したり書いたりする事ができるようにし、その事を通して自分自身の思考力や相手に伝える力を身につけます。 2年次プラスワンで英語表現Ⅰ選択者のみ対象です。	
生 活 と 福 祉	看護・福祉系の大学・短大・専門学校への進学・就職を希望する生徒が選択します。	
フードデザイン	栄養・調理系の大学・短大・専門学校へ進学を希望する生徒、調理系の職業を希望している生徒が対象です。食生活を総合的にデザインする能力と態度を身につけます。	
ビジネス経済	経済や市場について興味がある生徒が対象です。ユニットは関係ありません。ミクロ、マクロ経済を学習します。	
財 務 会 計 II	2年次会計ユニットの選択者が対象です。継続して簿記会計を学習します。	
電 子 商 取 引	ビジネス文書を中心に学習します。ユニットは関係ありません。全商ビジネス文書実務検定1級、2級を目標に学習します。	

情報処理科必修科目

ビジネス情報管理	2年次情報ユニットの選択者が対象です。「情報処理科」を卒業学科としたい生徒は必修となります。全商情報処理検定1級、ITパスポートを目標に学習します。	3
----------	--	---

選択科目単位計

3

事 務 職

販 売 職

製 造 職

看 護 ・ 介 護 系

大 学 生

短 期 大 学 生

専 門 学 校 生

教科名	国語	科目名	国語総合
単位数	4単位	履修年次・条件	第1学年・必修
教科書等	高等学校 改訂版 新編国語総合（第一学習社）		

① 学習の目標

- (1) 現代の様々な文章を読むことによって、自分の考えを深め、発展させる。
- (2) 古文、漢文に触れ、それぞれの内容を的確にとらえ、理解する。
- (3) 読書習慣を身につける。
- (4) 教育漢字の読み書きができる。可能な限り多くの常用漢字が読み書きできるようになる。

② 授業の内容

1 学期	現代文：随想、小説 等 古文入門 読書の時間
2 学期	現代文：小説、評論等 漢文入門 訓読に親しむ 読書の時間
3 学期	現代文：詩歌等 古文 読書の時間

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（年5回）
- (2) 週1～2回程度の漢字テスト および 課題テスト
- (3) 授業への意欲、態度
- (4) 提出物（ノート、プリント、読書の記録等）
- (5) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

「考える力を養う」ためには、言葉の力が必要である。様々なジャンルの文章に触れることによって、言葉の世界を広げてほしい。

教科名	公民	科目名	現代社会
単位数	2単位	履修年次・条件	第1学年・必修
教科書等	高等学校 現代社会 新訂版（清水書院）		

① 学習の目標

- (1) 自分はこれからの人生をどう生き、どんな人間になりたいのかを考える。そのために「人間とは何か」ということを、私たちを取り巻く様々な環境を学習しながら追及する。
- (2) 21世紀の日本や国際社会において、良識ある公民（＝政治に参加する権利と義務を持つ国民）として必要な能力と態度を身に付ける。

② 授業の内容

1 学期	(1) 青年期と自己の形成 ① 青年と自己実現 (2) 現代の民主政治と政治参加の意義 ① 基本的人権の保障 ② 日本国憲法の成立と三大原則 ③ 日本国憲法の人権保障
2 学期	④ 国会・内閣・裁判所の地位と権限 ⑤ 日本の平和主義 (3) 国民の政治参加と地方自治 ① 地方自治 ② 政党政治と選挙
3 学期	(4) 現代の経済社会と経済活動のありかた ① 現代の経済社会 (5) 国際社会の動向と日本の果たすべき役割 ① 国際社会の動向

③ 評価の方法

- (1) 出席状況
- (2) 授業への意欲・態度
- (3) 提出物（ノート、授業プリント、レポート、感想文等）
- (4) 定期考査（年5回） 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

景気の低迷によって就職活動も実力主義となり、試験本番の筆記テストが重視されている。試験の内容を見ると、現在の日本や世界で起こっている諸問題についての出題が多くなっている。「現代社会」を学習することは、今後の君達に大きな力を与えてくれるはずだ。資料等を使い、できるだけかみくだいて授業をし、生徒が参加する部分を多くしたい。君達にも積極的な取組を期待している。

教科名	数学	科目名	数学Ⅰ
単位数	3単位	履修年次・条件	第1学年・必修
教科書等	改訂版 最新 数学Ⅰ（数研出版）		

① 学習の目標

中学校で学んだ内容を確認しながら、数式の持つ意味や特徴を理解し、高校数学として必要な基本的計算及び論理的な思考が出来るようになる。

② 授業の内容

1 学期	1 章 「数と式」では、中学時に学習した数式の基本的な変形や計算を確認しながら、高校数学として必要な基礎・基本を身につける。 2 章 「2次関数」では関数の基本的な概念を学ぶと共に、2次関数のグラフ化による数量の視覚的变化とその特徴を理解し、プリント等を活用し、最大最小問題や応用問題へと発展させていく。
2 学期	3 章 「方程式と不等式」では、1学期当初に学んだ基本的計算をもとに2次方程式の解の公式や応用問題にまで発展させていく。また2次不等式についても学ぶ。
3 学期	4 章 「図形と計量」では、直角三角形の辺の比と角度の対応を学び、鋭角から鈍角へと拡張し、さらに三角形の計量問題へと発展させていく。

③ 評価の方法

- (1) 課題テスト(4月実施)
- (2) 定期考査(年5回)
- (3) 各授業における意欲・態度・出席状況等

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

各授業で学習した内容の理解度を定期考査等で確認する。そのために、毎回の授業を大切にしてい意欲を持って臨むこと。

数学Ⅰは高校数学の最も基本的な部分なので、しっかり学んで世の中を生きていくための一つの力にして欲しい。

教 科 名	理 科	科 目 名	化 学 基 礎
単 位 数	2 単 位	履修年次・条件	第 1 学 年 ・ 必 修
教科書等	改訂版 新編 化学基礎（数研出版）		

① 学習の目標

- (1) 基礎的な知識、技能を身につけ、それらを生活の中で活かすことができる。
- (2) 自然の事物・現象に興味をもち、科学的に探究することができる。
- (3) 主体的に学ぶことができる。

② 授業の内容

1 学 期	(1) 物質の構成 (2) 物質の構成粒子
2 学 期	(1) 粒子の結合 (2) 物質と化学反応式
3 学 期	(1) 酸と塩基の反応 (2) 酸化還元反応

③ 評価の方法

- (1) 定期考査(5回)
- (2) 授業中の取り組み
- (3) 提出物
- (4) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業はプリントで行う。
- (2) 授業には積極的に参加すること。
- (3) 提出物は期限を守って提出すること。

教 科 名	保健体育	科 目 名	体育
単 位 数	3 単位	履修年次・条件	第 1 学 年 ・ 必 修
教科書等	現代高等保健体育（大修館）		

① 学習の目標

- (1) 健康的な体をつくり、体力をつける。
- (2) 運動の特徴を知り、運動をむだなく行い、進んで運動する習慣をつける。
- (3) 楽しく運動を行い、生涯を通じて運動に親しむ態度を育てる。

② 授業の内容

1 学期	体づくり運動（体力を高める運動、体ほぐしの運動） 集団行動（集合・整列・礼・方向変換等） 新体力テスト（50 m 走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等） バレーボール 体育理論
2 学期	選択Ⅰ（マット運動・陸上競技の選択） 選択Ⅱ（ソフトテニス・バドミントンの選択） 持久走（サーキットトレーニング・3 km コース周回） 体育理論
3 学期	選択Ⅲ 男子：サッカー，女子：バスケットボール 体育理論

③ 評価の方法

- (1) 出席状況
- (2) 授業態度
- (3) ルールやマナーの理解
- (4) 課題の達成度・実技テスト

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 配布された『体育授業等確認事項』を十分に理解し、ルールやマナーを守り、安全に意欲的に授業に取り組めるようにすること。
- (2) 課題の達成が不十分な場合は完全に終了するまで補充する。
- (3) 健康上の理由で見学する場合でも、できることは積極的に参加すること。

教 科 名	保健体育	科 目 名	保健
単 位 数	1 単位	履修年次・条件	第 1 学 年 ・ 必 修
教科書等	最新高等保健体育 改訂版（大修館書店）		

① 学習の目標

- (1) 健康は人間の生活にとっての重要な土台であることを理解する。
(2) 個人の努力だけでなく、社会の一員として健康の問題を考える。
(3) 生涯を通じた健康づくりを意識する。

② 授業の内容

1 学期	(1) 私たちの健康のすがた (2) 健康のとらえ方 (3) さまざまな保健活動や対策 (4) 生活習慣病と日常の生活行動 (5) 喫煙と健康 (6) 飲酒と健康 (7) 薬物乱用と健康 (8) 医薬品と健康
2 学期	(9) 感染症とその予防 (10) エイズとその予防 (11) 健康にかかわる意志決定・行動選択 (12) 意志決定・行動選択に必要なもの (13) 欲求と適応機制 (14) 心身の相関とストレス (15) ストレスへの対処 (16) 自己実現
3 学期	(17) 交通事故の現状と要因 (18) 交通社会における運転者の資質と責任 (19) 安全な交通社会づくり (20) 応急手当の意義とその基本 (21) 心肺蘇生法 (22) 日常的な応急手当

③ 評価の方法

- (1) 定期考査
(2) 課題提出
(3) 出席状況
(4) 意欲・態度

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 1 単位なので特に出席状況に注意すること。
(2) 課題はかならず提出すること。
(3) 忘れ物をしないようにすること。

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅰ
単位数	3単位	履修年次・条件	第1学年・必修
教科書等	VISTA English Communication I New Edition (三省堂)		

① 学習の目標

- (1) 発音記号の表記に従って、正確な発音ができるようにする。
- (2) 品詞を理解して辞書を活用できるようにする。
- (3) 基本的文法事項を理解できるようにする。
- (4) 1000語程度の基本単語を習得し、使えるようにする。
- (5) 英文を読んでその内容を理解できるようにする。
- (6) 基本的なコミュニケーション能力を身につける。

② 授業の内容

1学期	Get Ready! 1, 2, 3 ののちゃんの英文法 Lesson 1 Kerama Blue Lesson 2 Cool Japan Lesson 3 Mexican Dishes	be 動詞・一般動詞 疑問文・現在進行形 助動詞・過去形
2学期	Lesson 4 The Olympics Lesson 5 Baobabs in Madagascar Lesson 6 Toothbrushing in Edo	基本文型 不定詞 動名詞
3学期	Lesson 7 Machu Picchu Lesson 8 Motala and Landmines	現在完了形 受け身

③ 評価の方法

- (1) 定期考査 (5回)
- (2) 小テスト
- (3) ノート・その他の提出物
- (4) 出席状況・授業への意欲・態度

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業内容がより理解できるように復習に取り組む。
- (2) 積極的な態度で授業に臨むこと。
- (3) 9月中旬に全商英語検定を受験する。

教科名	商業	科目名	ビジネス基礎
単位数	3単位	履修年次・条件	第1学年・必修
教科書等	ビジネス基礎 新訂版（東京法令出版）		

① 学習の目標

- (1) ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得し、経済社会の一員として望ましい心構えを身に付けるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を身に付ける。
- (2) 卒業後の進路などについて意識を高め、主体的に学習に取り組む。

② 授業の内容

1 学期	(1) 商業の学習ガイダンス (2) ビジネス計算の基礎 (3) ビジネスと売買取引
2 学期	(4) ビジネスとコミュニケーション (5) ビジネス計算の応用 (6) 経済と流通の基礎 (7) 企業活動の基礎
3 学期	(8) 経済と流通の発展課題

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（年5回、学年末考査は行わない場合もある。その場合は、代わりに発表会を実施予定。）
- (2) 出席状況
- (3) 授業への意欲・態度
- (4) 課題の提出及び、完成度
- 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 商業を学ぶ目的や学び方を知り、目的意識をもって学習に臨むこと。
- (2) 自分の進路選択を踏まえ、高校生活における資格取得や商業履修科目（ユニット選択）の計画を立てること。

教 科 名	商 業	科 目 名	簿 記
単 位 数	4 単 位	履修年次・条件	第 1 学 年 ・ 必 修
教科書等	簿 記（東京法令出版）		

① 学習の目標

- (1) 経済活動に伴う取引を正確、明瞭に記録・計算・整理するための知識や技術を習得する。
- (2) 簿記の基本原則を理解するとともに、合理的な会計処理能力・態度を養う。
- (3) 簿記の記帳方法の基礎・基本を繰り返し学習して身につける。
- (4) 実務と授業が結びつくように、相互の関連性を学ぶ。

② 授業の内容

1 学 期	簿記の基礎、企業の簿記、簿記の要素、取引と勘定、仕訳と転記、仕訳帳と総勘定元帳、現金・預金の記帳、商品売買の記帳、掛け取引の記帳について学ぶ。
2 学 期	手形取引の記帳、その他の債権・債務の記帳、有価証券の記帳を学ぶ。ビジネス特有の表現や言い回しを理解する。 個人企業の決算の意義を理解し、財務諸表作成方法を身につける。
3 学 期	3 級の総合演習をおこなう。 1 月下旬に簿記検定 3 級受験。検定後は 2 級の範囲へ進んでいく。

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（年 5 回）
- (2) 課題提出
- (3) 意欲・態度
- (4) 出席状況等

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業中の学習態度、提出物に対する意欲を重視する。
- (2) 1 月下旬の簿記検定を受験すること。

教 科 名	商 業	科 目 名	情 報 処 理
単 位 数	4 単 位	履修年次・条件	第 1 学 年 ・ 必 修
教科書等	情報処理 新訂版（東京法令出版）		

① 学習の目標

- (1) ワードプロセッサの編集機能を利用して、正確に早く入力できるように指のホームポジションを習得する。
- (2) 表計算ソフトウェアの基本操作や関数について学習し、グラフや分析機能を活用し、ビジネスに関する情報を有効に処理、分析、判断する能力や態度を身につける。

② 授業の内容

1 学 期	(1) ビジネスと情報 ①コンピュータのハードウェア ②コンピュータのソフトウェア (2) ビジネス文書の作成 ①キーボード操作 ②タッチメソッドによる文字入力練習 ③ビジネス文書の作成 中間考査は、実技試験・筆記試験を実施 ※ 7月のビジネス文書実務検定3級を受験
2 学 期	(1) 情報の活用と情報モラル (2) 情報通信ネットワークとセキュリティ管理 (3) ビジネス情報の処理と分析 ①基本的な表の作成 ②関数を利用した表の作成 ③グラフの作成 中間考査・期末考査は、実技試験・筆記試験を実施
3 学 期	(1) ビジネス情報の処理と分析 (2) ビジネス文書の作成 ※ 1月の情報処理検定3級を受験 学年末考査は、実技試験・筆記試験を実施

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（授業時間中に実技試験を行うこともある。）
- (2) 授業への取り組み状況
- (3) 出席状況
- (4) 課題提出

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

コンピュータ実習が、授業における中心的な内容なので、出席状況および実習に対する意欲（課題提出など）、学習態度を重視する。

教 科 名	国 語	科 目 名	現 代 文 B
単 位 数	3 単 位	履修年次・条件	第 2 学 年 ・ 必 修
教 科 書 等	新編現代文 B 改訂版（大修館書店）		

① 学 習 の 目 標

- (1) 現代における様々なジャンルの文章を読みこなすことによって、読解力を伸ばし、自分の考えを深める。
- (2) 語彙力を伸ばすとともに、漢字の知識を身につける。

② 授 業 の 内 容

1 学 期	現代文：随想、小説 等
2 学 期	現代文：小説、評論等
3 学 期	現代文：詩歌等

③ 評 価 の 方 法

- (1) 定期考査（年 5 回）
- (2) 漢字テスト および 課題テスト
- (3) 授業への意欲、態度
- (4) 提出物（ノート、プリント等）
- (5) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学 習 を 進 め る う え で の 留 意 点

「考える力を養う」ためには、言葉の力が必要である。語彙力を付けることで言葉の世界を広げ、自分の考えをまとめる力が身に付くよう取り組んでほしい。

教科名	地歴	科目名	世界史 A
単位数	2 単位	履修年次・条件	第 2 学年・必修
教科書等	高等学校 改訂版 世界史 A (第一学習社)		

① 学習の目標

- (1) 古来地域ごとにいくつかの文化圏が形成され、独自の社会と文化を発達させてきたこと。
- (2) ヨーロッパは近代化を推進する頃から強大化し、世界の一体化を進め今日に至ること。
- (3) 近代化とは何か、人権意識の拡大を含め、現代の視点から理解する。以上の 3 点を中心に学習する。

② 授業の内容

1 学期	諸文明の歴史的特質、古代中国の文化 中間考査 古代インドの文化、西アジアとイスラム文化 期末考査
2 学期	ヨーロッパ文化とキリスト教、近代へと向かうヨーロッパ 中間考査 近代のヨーロッパ、近代のアメリカ 期末考査
3 学期	産業革命と市民革命 近代・現代の世界 学年末考査

③ 評価の方法

- (1) 授業ノート
- (2) 定期考査
- (3) 出席状況および授業態度
- (4) 課題の提出状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 国名と位置が結びつけることができるように、そのつど地図で確認し、理解できるよう努力すること。
- (2) ノートは必ず提出すること。
- (3) 歴史の大きな流れをつかめるように努力すること。

教科名	数学	科目名	数学 A
単位数	2 単位	履修年次・条件	第 2 学年・必修
教科書等	改訂版 最新 数学 A (数研出版)		

① 学習の目標

中学校や高校 1 年次で学んだ数学を基盤にして、集合と場合の数、確率、整数の性質、平面図形について、基本的な知識の習得と具体的な場面でその知識を使えるようにする。

② 授業の内容

1 学期	1 章 「集合と場合の数」では、日常生活などでも汎用のある集合・順列・組合せについて理解し使える能力を身につける。 「確率」では、確率の意味、計算について理解し使える能力を身につける。
2 学期	2 章 「整数の性質」では、約数と倍数や、ユークリッドの互除法などについて学び、整数の性質の活用についてもふれる。
3 学期	3 章 「平面図形」では、三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め論理的に考察できるようにする。

③ 評価の方法

- (1) 定期考査 (年 5 回)
- (2) 各授業における意欲・態度・出席状況等

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

各授業で学習した内容の理解度を定期考査等で確認する。そのために、毎回の授業を大切に意欲を持って臨むこと。

数学 A は数学 I に次ぐ基本的な科目なので、しっかり学んで世の中を生きていくための一つの力にして欲しい。

教 科 名	理 科	科 目 名	生 物 基 礎
単 位 数	2 単 位	履修年次・条件	第 2 学 年 ・ 必 修
教 科 書 等	改 訂 新 編 生 物 基 礎 （ 東 京 書 籍 ）		

① 学 習 の 目 標

- (1) 基礎的な知識、技能を身につけ、それらを生活の中で活かすことができる。
- (2) 自然の事物・現象に興味をもち、科学的に探究することができる。
- (3) 主体的に学ぶことができる。

② 授 業 の 内 容

1 学 期	(1) 生物の特徴 (2) 遺伝子とそのはたらき
2 学 期	(1) 生物の体内環境の維持 (2) 生物の多様性と生態系
3 学 期	(1) 生物の多様性と生態系

③ 評 価 の 方 法

- (1) 定期考査（5回）
- (2) 授業中の取り組み
- (3) 提出物
- (4) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学 習 を 進 め る う え で の 留 意 点

- (1) 授業はプリントで行う。
- (2) 授業には積極的に参加すること。
- (3) 提出物は期限を守って提出すること。

教 科 名	保健体育	科 目 名	体 育
単 位 数	2 単 位	履修年次・条件	第 2 学 年 ・ 必 修
教科書等	現代高等保健体育（大修館）		

① 学習の目標

- (1) 約束事やルールを守る態度を身につける。
- (2) 運動ができるようになるための方法を身につける。
- (3) 低下傾向にある体力を向上させる。
- (4) 楽しく運動を行い、生涯を通じて運動に親しむ態度を育てる。

② 授業の内容

1 学 期	体づくり運動（体力を高める運動、体ほぐしの運動） 新体力テスト（50m走・持久走・ハンドボール投げ等） ソフトボール
2 学 期	ソフトボール 持久走（サーキットトレーニング・3kmコース周回） 体育理論
3 学 期	男子：バドミントン 女子：サッカー 体育理論

③ 評価の方法

- (1) 出席状況
- (2) 授業態度
- (3) ルールやマナーの理解
- (4) 課題の達成度・実技テスト

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 配布された『体育授業等確認事項』を十分に理解し、ルールやマナーを守り、安全に意欲的に授業に取り組めるようにすること。
- (2) 課題の達成が不十分な場合は完全に終了するまで補充する。
- (3) 健康上の理由で見学する場合でもできることは積極的に参加すること。

教 科 名	保健体育	科 目 名	保 健
単 位 数	1 単 位	履修年次・条件	第 2 学 年 ・ 必 修
教科書等	最新高等保健体育 改訂版（大修館書店）		

① 学習の目標

- (1) 生涯を通じた健康づくりを意識する。
- (2) 社会の一員として健康の問題を考える。
- (3) 生活環境を守るための知識と能力を育てる。

② 授業の内容

1 学 期	<生涯を通じる健康> (1) 思春期と健康 (2) 性意識と性行動の選択 (3) 結婚生活と健康 (4) 妊娠・出産と健康 (5) 家族計画と人工妊娠中絶 (6) 加齢と健康 (7) 高齢者のための社会的とりくみ
2 学 期	(8) 保健制度とその活用 (9) 医療制度とその活用 (10) 医薬品と健康 (11) さまざまな保健活動や対策 <社会生活と健康> (1) 大気汚染と健康 (2) 水質汚濁・土壌汚染と健康 (3) 健康被害の防止と環境対策
3 学 期	(4) 環境衛生活動のしくみと働き (5) 食品衛生活動のしくみと働き (6) 食品と環境の保健と私たち (7) 働くことと健康 (8) 労働災害と健康 (9) 健康的な職業生活

③ 評価の方法

- (1) 定期考査 (2) 課題提出 (3) 出席状況 (4) 意欲・態度
- 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 1 単位なので特に出席状況に注意すること。
- (2) 課題はかならず提出すること。
- (3) 忘れ物をしないようにすること。

教 科 名	芸 術	科 目 名	音 楽 I
単 位 数	2 単 位	履修年次・条件	第 2 学 年 ・ 選 択 必 修
教科書等	音 楽 I 改 訂 版 Tutti (教育出版)		

① 学習の目標

- (1) 芸術に親しむ心を養う。
- (2) 芸術科目（音楽）を使って自己表現をする。

② 授業の内容

1 学 期	(1) 実技は、歌唱を中心に学習する。 (2) 基本的な楽典的知識（音符・休符・音楽用語等）の復習から始め、譜面の正しい読み方、書き方を学習する。 (3) 雅楽、邦楽など日本の伝統音楽について学習する。
2 学 期	(1) 実技は器楽（主にリコーダー）を中心に学習する。 (2) 西洋の楽器について、その個々の音色、奏法、構造をはじめ、分類の仕方などを学習する。 (3) 劇音楽（オペラ・バレエ・ミュージカルなど）について学習する。
3 学 期	(1) 実技は歌唱及び器楽のアンサンブルを中心に学習する。 (2) アジアの様々な国の民謡や伝統音楽、またその楽器について学習する。

③ 評価の方法

- (1) 各学期ごとの実技と筆記のテスト
- (2) 授業への取り組み
- (3) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 出席を重視するので、休まないこと。
- (2) 授業中の学習態度（実技練習への取り組みや鑑賞するときの態度等）を重視する。
- (3) なにごとにも好奇心を持つこと。

教科名	芸術	科目名	美術 I
単位数	2 単位	履修年次・条件	第 2 学年・選択必修
教科書等	高校生の美術 I（日本文教）		

① 学習の目標

- (1) 芸術に親しむ心を養う。
- (2) 表現方法を工夫し、美的体験を豊かにする。

② 授業の内容

1 学期	デザイン（色の学習） 絵画（表現の学習・デッサン）
2 学期	鑑賞（それぞれの見方・感じ方を味わう） デザイン（作品制作）
3 学期	表現（これまでの学習を活用し、まとめの制作）

③ 評価の方法

- (1) 作品（課題）
- (2) 授業への意欲・態度
- (3) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 出席を重視する。
- (2) 課題の達成が不十分な場合、放課後等を使って補充する場合がある。
- (3) なにごとにも好奇心を持ち、課題に取り組むこと。

教 科 名	芸 術	科 目 名	書 道 I
単 位 数	2 単 位	履修年次・条件	第 2 学 年 ・ 選 択 必 修
教科書等	書 I （光村図書）		

① 学習の目標

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

② 授業の内容

1 学期	書写から書道へ（国語科書写と芸術科書道の違いを学ぶ） 文房四宝（用具・用材の知識を学ぶ） 楷書の学習（書風の違いを学ぶ） 硬筆の学習（学習の成果を発表し、鑑賞の仕方を学ぶ）
2 学期	行書の学習（筆づかひの流れ、筆脈を学ぶ） 篆刻の学習（姓名印を作り、印の効果及びはたらきを学ぶ） 書きぞめの学習（学習の成果を発表し、鑑賞の仕方を学ぶ）
3 学期	仮名の学習（仮名の起こりと日本の書の伝統美を学ぶ） 漢字仮名交じりの学習（身近な書の表現を学ぶ） 創作（自分のねらいを表現する楽しみを味わう）

③ 評価の方法

- （１）作品の出来栄
- （２）授業への取り組み（学習する意欲と態度）
- （３）出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- （１）出席を重視するので、休まないこと。
- （２）作品の仕上がりが不十分な場合、放課後等を使って補充する場合があります。
- （３）なにごとにも好奇心を持ち、集中力と根気をもって取り組むこと。

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ
単位数	3単位	履修年次・条件	第2学年・必修
教科書等	VISTA English CommunicationⅡ New Edition(三省堂)		

① 学習の目標

- (1) リスニングや発音練習を通して正確な発音・イントネーションを身につける。
- (2) 2000語程度の基本の英単語を習得し、使えるようにする。
- (3) 1年次に習得した読解力を活かし、より高度な内容の読み物を理解できるようにする。
- (4) 教材を通して文法知識や語彙の強化を図る。
- (5) (1)～(4)を通して、より実践的なコミュニケーション能力を身につける。

② 授業の内容

1学期	Lesson 9 Dick Bruna Lesson 10 Tsujii, the Great Pianist 英語マスターノート(1～9)	関係代名詞 関係副詞・形式主語
2学期	Lesson 11 Ideas from Nature Lesson 12 Steve Jobs 英語マスターノート(10～17)	分詞構文 仮定法過去
3学期	Lesson 1 Birthdays, Here and There Lesson 2 The Emerald Isle 英語マスターノート(18～19)	疑問詞やifで始まる節 比較

③ 評価の方法

- (1) 定期考査(5回)
- (2) 小テスト
- (3) ノート・その他の提出物
- (4) 出席状況・授業への意欲・態度

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業内容がより理解できるように復習に取り組む。
- (2) 積極的な態度で授業に臨むこと。
- (3) 9月中旬に全商英語検定を受験する。
- (4) 英語の4技能(読む・書く・聞く・話す)を活かし、より発展的なコミュニケーション能力を身につける。

教科名	家庭科	科目名	家庭総合
単位数	2単位	履修年次・条件	第2学年・必修
教科書等	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）		

① 学習の目標

- (1) 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に学ぶ。
- (2) 家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

② 授業の内容

1 学期	(1) 人の一生と家族・家庭 (2) 生活における経済の計画
2 学期	(3) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉 (4) 衣生活の科学と文化
3 学期	(5) 衣生活における製作 (6) 生活における経済と消費

③ 評価の方法

- (1) 出席状況
(2) 授業への意欲、態度
(3) 提出物
(4) 定期考査（3回）

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 学習した知識、技術を実生活に生かせるよう取り組むこと。
- (2) 出席状況、提出物等に注意すること。

教 科 名	商 業	科 目 名	ビジネス実務
単 位 数	2 単 位	履修年次・条件	第 2 学 年 ・ 必 修
教科書等	ビジネス実務 新訂版（実教出版）		

① 学習の目標

ビジネス実務に関する知識と技術を習得し、ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や業務の合理化の重要性について理解するとともに、ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度を身に付ける。

② 授業の内容

1 学期	(1) 企業の組織と人間関係 (2) オフィスの業務 (3) ビジネスマナー
2 学期	(1) ビジネスコミュニケーション (2) 国際化とコミュニケーション
3 学期	(1) ビジネスの会話 (2) 英語実習

③ 評価の方法

- (1) 小テストの結果等の知識・理解に関すること
 - (2) 各授業でのワークシートを含む、授業課題の提出及び内容等の思考・判断・表現に関すること
 - (3) 授業への出席・取組状況等の関心・意欲・態度に関すること
- 以上を総合して評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 服装を整える等、規律をもって授業へ参加すること。
- (2) 積極的に授業へ参加し、自ら学び力を付ける姿勢を持つこと。

教科名	商業	科目名	マーケティング
単位数	3単位	履修年次・条件	第2学年・流通ユニット必修
教科書等	マーケティング 新訂版（実教出版）		

① 学習の目標

マーケティングに関する知識と技術を習得させ、マーケティングの意義や役割について理解させるとともに、マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身に付ける。

② 授業の内容

1 学期	(1) 現代市場とマーケティング (2) 市場調査
2 学期	(1) 商品計画・販売計画の立案 (2) 販売経路と販売促進 (3) 販売実習
3 学期	(1) 取り組みのまとめ・発表 (2) 次年度への振り返り

③ 評価の方法

- (1) 小テストの結果等の知識・理解に関すること
 - (2) 各授業における課題への記述内容・成果物の完成度および内容等の思考・表現に関すること
 - (3) 授業の取組・校外実習への参加取組状況等の関心・意欲に関すること
- 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 身に付けた基礎理論を実習等で積極的に活用する姿勢を持つこと。
- (2) 校外での実習等へ積極的に参加すること。

教 科 名	商 業	科 目 名	財 務 会 計 I
単 位 数	3 単 位	履修年次・条件	第2学年・会計ユニット必修
教科書等	財 務 会 計 I 新 訂 版（東京法令出版）		

① 学習の目標

- (1) 企業会計の役割・制度及び財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。
- (2) 財務諸表の意義や制度について理解する。
- (3) 財務諸表から得られる会計情報を活用する能力と態度を育てる。
- (4) 簿記検定において、全商簿記検定1級（会計）の資格取得を目指す。

② 授業の内容

1 学 期	(1) 財務会計の基礎 ① 財務会計の意義と役割 ② 財務会計の機能 ③ 会計法規と会計基準 (2) 貸借対照表 ① 資産 ② 負債 ③ 純資産 ④ 貸借対照表の作成
2 学 期	(1) 損益計算書 ① 損益計算書の意味と損益の区分 ② 収益・費用の認識と測定 ③ 損益計算書の作成 (2) 連結財務諸表 ① 連結財務諸表の目的と連結の範囲 ② 連結財務諸表作成の基礎
3 学 期	(1) 財務諸表活用の基礎 ① 財務諸表分析の意義 ② 財務諸表の見方

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（年5回） (2) 課題提出
(3) 意欲・態度 (4) 出席状況 等
以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 学習態度、提出物に対する意欲を重視する。
- (2) 全商簿記1級（会計）を念頭において授業展開する。
- (3) 高度な内容を学習していく。

教科名	商業	科目名	原価計算
単位数	3単位	履修年次・条件	第2学年・会計ユニット必修
教科書等	原価計算 新訂版（東京法令出版）		

① 学習の目標

- (1) 製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を習得する。
- (2) 原価の概念について理解する。
- (3) 原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。
- (4) 簿記検定において、全商簿記検定1級（原価計算）の資格取得を目指す。

② 授業の内容

1 学期	(1) 原価と原価計算 ① 原価の概念と原価計算 ② 製造業における簿記の特色と仕組み (2) 原価の費目別計算 ① 材料費の計算と記帳 ② 労務費の計算と記帳 ③ 経費の計算と記帳 (3) 原価の部門別計算と製品別計算 ① 個別原価計算と費目別計算 ② 部門別個別原価計算 ③ 総合原価計算
2 学期	(1) 製品の完成・販売と決算 ① 製品の完成と販売 ② 工場会計の独立 ③ 製造業の決算
3 学期	(1) 標準原価計算 ① 標準原価計算の目的と手続 ② 原価差異の原因別分析 ③ 損益計算書の作成 (2) 直接原価計算の基礎 ① 直接原価計算の目的と損益計算書の作成 ② 短期利益計画

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（年5回） (2) 課題提出
 - (3) 意欲・態度 (4) 出席状況 等
- 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 学習態度、提出物に対する意欲を重視する。
- (2) 全商簿記検定1級（原価計算）を念頭において授業展開する。
- (3) 1月の原価計算を受験する。

教科名	商業	科目名	ビジネス情報
単位数	3単位	履修年次・条件	第2学年・情報ユニット必修
教科書等	ビジネス情報 新訂版（実教出版）		

① 学習の目標

- (1) ビジネスに関する情報を適切に管理・分析し、活用する知識と技術を習得させる。
- (2) コンピュータを活用することの重要性について理解させるとともに、業務を積極的に合理化、自動化する能力と態度を身につける。

② 授業の内容

1 学期	(1) 表計算ソフトウェア活用 ①データの検索 ②報告書の作成 (2) ビジネス計算と表の作成 ①金融に関する計算 ②証券投資に関する計算 (3) ビジネス情報とデータベース 中間考査・期末考査は、実技・筆記を行う
2 学期	(1) 表計算ソフトウェアの活用 (2) 表計算ソフトウェアの活用 2 ①データの分析 ②手続の自動化 9月の情報処理検定2級受験（ビジネス情報部門） 中間考査・期末考査を行う
3 学期	(1) 1月の情報処理検定1級・2級受験（ビジネス情報部門） (2) データベースソフトウェアの活用 ①データベースの作成 ②関数の利用 ③手続の自動化 学年末考査を行う

③ 評価の方法

- | | |
|---------------|----------|
| (1) 定期考査（年5回） | (2) 実技試験 |
| (3) 出席状況 | (4) 課題提出 |
- 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術を習得する。

教科名	商業	科目名	I C T 活用
単位数	3 単位	履修年次・条件	第2学年・情報ユニット選択
教科書等	なし		

① 学習の目標

- (1) 情報技術に関する基礎的な知識を習得し、業務に対して活用し、活動を行うことができる人材を育成する。
- (2) 情報機器及びシステムの把握や業務の遂行及びシステム化を推進できる人材を育成する。

② 授業の内容

1 学期	(1) ストラテジ系 ① 企業活動 ② 法務 ③ 経営戦略マネジメント ④ 技術戦略マネジメント ⑤ ビジネスインダストリ ⑥ システム戦略 ⑦ システム企画 (2) マネジメント系 ① システム開発技術 ② ソフトウェア開発管理技術
2 学期	(2) マネジメント系 ③ プロジェクトマネジメント ④ サービスマネジメント ⑤ システム監査 (3) テクノロジ系 ① 基礎理論 ② アルゴリズムとプログラミング ③ コンピュータ構成要素 ④ システム構成要素 ⑤ ソフトウェア ⑥ ハードウェア
3 学期	(3) テクノロジ系 ⑦ ヒューマンインタフェース ⑧ マルチメディア ⑨ データベース ⑩ ネットワーク ⑪ セキュリティ (4) 問題演習

③ 評価の方法

- | | |
|----------|-----------|
| (1) 定期考査 | (2) 課題提出 |
| (3) 出席状況 | (4) 意欲・態度 |

④ 学習を進めるうえでの留意点

学習態度、提出物に対する意欲を重視する。

教 科 名	商 業	科 目 名	文 書 実 務
単 位 数	3 単 位	履修年次・条件	第2学年・流通ユニット必修 第2学年・情報ユニット選択
教科書等	なし		

① 学習の目標

- (1) 広報活動に必要な文書に関する知識と技術を習得するとともに、各種メディアで作成した情報を統合させる知識と技術を習得させる。
- (2) ビジネスの諸活動において情報を効果的に発信する能力と態度を身につける。

② 授業の内容

1 学期	(1) 広報活動と文書 ① 広報活動の意義と役割 ② 広報の手法 (2) ビジネス文書実務検定2・3級の受験準備 ① 速度問題 ② 文書問題 ③ 筆記問題 6月全商ビジネス文書実務検定1級・2級・3級受験 中間・期末検査を行う
2 学期	(1) ビジネス文書実務検定1・2級の受験準備 ① 速度問題 ② 文書問題 ③ 筆記問題 11月全商ビジネス文書実務検定1級・2級・3級受験 中間検査・期末検査を行う
3 学期	(1) ビジネス文書実務検定1級文書作成の学習 文書問題(ワードアート、図の挿入、テキストボックス、 ソート、合計等)ワープロソフトの活用 期末検査を行う (2) プレゼンテーションソフトの活用など、各種ビジネス文 書の作成練習

③ 評価の方法

- | | |
|---------------|--------------|
| (1) 定期検査(年5回) | (2) 実技試験 |
| (3) 出席状況 | (4) 課題提出 |
| (5) 検定の結果 | 以上を総合的に評価する。 |

④ 学習を進めるうえでの留意点

ビジネスに関する情報処理・文書作成についてワープロソフトなどを利用して表現し、管理、分析、活用する知識や技術を習得する。

年2回のビジネス文書実務検定試験を受験するものとする。

検定前には検定合格に向けた補習をおこなう。

教科名	国語	科目名	古典 A
単位数	2 単位	履修年次・条件	第2学年・プラスワン選択
教科書等	高等学校 改訂版 標準古典 A 物語選（第一学習社）		

① 学習の目標

- (1) 長い伝統を持つ古典に触れることで、日本人の感性や言語の特質を理解しながら読み味わう。
- (2) 基本的な知識や文法を身に付けて、当時の人々のものの見方や考え方を理解し、現在に至るまでの精神的軌跡の一端に触れる。

② 授業の内容

1 学期	古文の説話や随筆等 故事成語
2 学期	漢詩のきまりとその鑑賞 古文の物語
3 学期	漢文の史伝 古文の日記文学

③ 評価の方法

- (1) 定期考査、またはそれに代わるもの
- (2) 授業への意欲、態度
- (3) 提出物（ノート、プリント等）
- (4) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

「温故知新」の言葉が示すように、古典を学ぶことは未来へ進むための大切な指針となる。日本人の精神のルーツや日本語のルーツを探ることで、これからの新しい世界を広げてほしい。

教科名	英語	科目名	英語表現 I
単位数	2 単位	履修年次・条件	第2学年・プラスワン選択
教科書等	NEW ONE WORLD Expressions I Revised Edition (教育出版)		

① 学習の目標

スピーキングとライティングの力をつけることを目標とする。聞いたり読んだりした内容を踏まえて、自分の考えなどを話したり書いたりする事ができるようにする。その事を通して自分自身の思考力や相手に伝える力を身につける。

② 授業の内容

1 学期	Lesson 1 My Name Is Michael Smith Lesson 2 We Are Going to Have a Picnic Lesson 3 School Rules Lesson 4 Going to Canada to See Hiroko
2 学期	Lesson 5 It's a Small World Lesson 6 What Is This Called? Lesson 7 I Like Playing the Piano Lesson 8 I Almost Forgot to Tell You
3 学期	Lesson 9 Reading Books Lesson 10 Photos from Hawaii Lesson 11 A Partner Who Does Housework Lesson 12 What He Impressed Me

③ 評価の方法

- (1) 定期考査 (5 回)
- (2) 小テスト
- (3) ノート・その他の提出物
- (4) 出席状況・授業への意欲・態度

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業内容がより理解できるように復習に取り組む。
- (2) 積極的な態度で授業に臨むこと。
- (3) 日本語においても、自己表現できるように心掛ける。

教科名	商業	科目名	簿記
単位数	2単位	履修年次・条件	第2学年・プラスワン選択・流通・情報ユニット選択者
教科書等	はじめての簿記（ネットスクール出版）		

① 学習の目標

- (1) 特殊な取引の記帳、株式会社の基本的な取引の記帳、特殊仕訳帳・5伝票による記帳法および経過勘定の習得をする。
- (2) 1年次の簿記を基礎とし、簿記検定の2級合格を目指す。

② 授業の内容

1 学期	(1) 経過勘定 現金の入金・出金及び当座預金の預け入れ・引き出しなど、現金と当座預金に関する基本的な取引の記帳 現金過不足、当座借越、小口現金、その他の預貯金の記帳
2 学期	(2) 基本的な取引の記帳 商品の仕入・売上及び返品・値引きなど、商品売買に関する取引の記帳 (3) 特殊な商品売買 割賦販売、委託販売、未着商品売買、試用販売等 (4) 5伝票や特殊仕訳帳の記帳 (5) 決算に関する基礎的な知識と技術を習得
3 学期	(6) 2級 総合演習 2月中旬に全経簿記検定2級を受験する

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（年5回）
- (2) 提出物に関する意欲・態度
- (3) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業中の学習態度、提出物に対する意欲を重視する。
- (2) 課題はすべて、ファイリングする。
- (3) 検定前の補習などは積極的に参加する。
- (4) 2月の簿記検定を受験する。

教 科 名	商 業	科 目 名	情 報 処 理
単 位 数	2 単 位	履修年次・条件	第2学年・プラスワン選択・会計、流通ユニット選択者
教科書等	情報処理 新訂版（東京法令出版）		

① 学習の目標

- (1) コンピュータのハードウェアやソフトウェアを理解し、実務に必要なソフトウェアを活用して、「ビジネスに関するスペシャリスト」としての人材を育成する。
- (2) 情報を収集し、処理し伝達する力や新しい業務に積極的に活用する力を習得する。

② 授業の内容

1 学 期	(1) 情報の活用と情報モラル ①ビジネスと情報 ②情報モラル ③ハードウェアやソフトウェア (2) ビジネス情報の処理 ①基本的な表の作成 ②関数を利用した表の作成 ③グラフの作成 中間考査・期末考査は、実技・筆記を行う
2 学 期	(1) 情報通信ネットワークとセキュリティ管理 ①情報通信ネットワークの概要 ②ビジネス情報の検索と収集、受信と発信 ③セキュリティ管理の基礎 (2) ビジネス情報の分析 ①情報の整列・検索・抽出 ②ビジネスと統計 9月の情報処理検定2級・3級受験（ビジネス情報部門） 中間・期末考査は、実技・筆記試験を実施
3 学 期	(1) 問題演習 1月の情報処理検定1級・2級受験（ビジネス情報部門） 学年末考査は、実技・筆記試験を実施

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（年5回） (2) 筆記試験・実技試験 (3) 出席状況
- (4) 課題提出 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

ビジネスにおいてコンピュータやソフトウェアがどのように活用されているかを学び、コンピュータを活用できる力を養う。

教 科 名	商 業	科 目 名	プログラミング
単 位 数	2 単 位	履修年次・条件	第2学年・プラスワン選択・情報ユニット選択者
教科書等	最新プログラミング（実教出版）		

① 学習の目標

- (1) プログラミング（J a v a 言語）に関する知識と技術を習得させ、コンピュータの効果的・効率的な運用方法について理解する。
- (2) ビジネスの諸活動に関する情報を合理的にプログラミングし、コンピュータを活用する能力と態度を身につける。

② 授業の内容

1 学 期	(1) プログラミングの基礎 ① J a v a プログラミングの基本 ② 変数と計算式 ③ クラスライブラリの利用 (2) 制御構造 ① 選択 ② 繰り返し ③ 高度な制御 (3) 課題作成提出
2 学 期	(1) クラス定義の基本 配列 J a v a プログラム作成 (2) アプリケーションソフトを使用した情報技術の学習 (3) 課題作成提出
3 学 期	(1) アプリケーションソフトを使用した情報技術の学習 (2) 課題作成提出

③ 評価の方法

- (1) 実習課題 (2) 出席状況 (3) 課題提出
以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

コンピュータを使った情報処理の仕組みについて理解させ、プログラミングに関する知識と技術を習得する。

情報を合理的に処理しコンピュータを効果的に活用する能力と態度を身につける。

アプリケーションソフトを利用し図や 3 D を作成することで応用力を身につける。

教科名	商業	科目名	ビジネスコミュニケーション
単位数	2単位	履修年次・条件	第2学年・プラスワン選択・流通ユニット選択者
教科書等	なし		

① 学習の目標

- (1) ビジネスや冠婚葬祭等におけるマナーを身につける。
(2) ビジネスに必要な計算能力を身につける。
(3) 全商電卓検定（普通計算部門・ビジネス計算部門）3級の取得を目標とする。

② 授業の内容

1 学期	(1) ビジネスに必要な ①心構え ②身だしなみ ③職務知識 <中間考査> (2) ビジネスに必要な計算の基礎一般知識 ①度量衡の計算 ②外国貨幣の計算 ③割合に関する計算 ④割増に関する計算 ⑤割引に関する計算 <期末考査>
2 学期	⑥商品の数量と代金の計算 ⑦仕入原価の計算 ⑧販売価格の計算 ⑨販売損益の計算 <中間考査> ⑩利息計算 <期末考査>
3 学期	ビジネス計算の演習 <学年末考査>

③ 評価の方法

- (1) 定期考査 (2) 課題に対する意欲・態度
(3) 実習に対する意欲・態度 (4) 宿題に対する意欲・態度
(5) 出席状況等

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業中の学習態度、提出物に対する意欲を重視する。
(2) 全商電卓検定3級を受験する。

教 科 名	商 業	科 目 名	文 書 実 務
単 位 数	2 単 位	履修年次・条件	第2学年・プラスワン選択・会計ユニット選択者
教科書等	なし		

① 学習の目標

- (1) 広報活動に必要な文書に関する知識と技術を習得するとともに、各種メディアで作成した情報を統合させる知識と技術を習得する。
- (2) ビジネスの諸活動において情報を効果的に発信する能力と態度を身につける。

② 授業の内容

1 学期	(1) 広報活動と文書 ① 広報活動の意義と役割 ② 広報の手法 (2) ビジネス文書実務検定 2・3 級の受験準備 ① 速度問題 ② 文書問題 ③ 筆記問題 6 月 全商ビジネス文書実務検定 1 級・2 級・3 級受験 中間・期末考査を行う
2 学期	(1) 表計算ソフトウェアの活用 (9 月) (2) ビジネス文書実務検定 1・2 級の受験準備 ① 速度問題 ② 文書問題 ③ 筆記問題 11 月 全商ビジネス文書実務検定 1 級・2 級・3 級受験 中間考査・期末考査を行う
3 学期	(1) ビジネス文書実務検定 1 級文書作成の学習 文書問題 (ワードアート、図の挿入、テキストボックス、 ソート、合計等) ワードプロソフトの活用 (2) 各種ビジネス文書の作成練習

③ 評価の方法

- | | |
|----------------|--------------|
| (1) 考査 (年 5 回) | (2) 実技試験 |
| (3) 出席状況 | (4) 課題提出 |
| (5) 検定の結果 | 以上を総合的に評価する。 |

④ 学習を進めるうえでの留意点

ビジネスに関する情報処理・文書作成をワードプロソフト・表計算ソフトを利用して表現し、管理、分析、活用する知識や技術を習得する。

教 科 名	国 語	科 目 名	現 代 文 B
単 位 数	2 単 位	履修年次・条件	第 3 学 年 ・ 必 修
教科書等	新編現代文 B 改訂版（大修館書店）		

① 学習の目標

- （１）現代の様々な文章を読みこなすことによって、自分の考えを深め、発展させていく。
- （２）文学史の基礎を理解させる。
- （３）文章を書くときの基礎をしっかりと身につける。

② 授業の内容

1 学期	現代文：随想、小説 等 文学史の基礎
2 学期	現代文：小説、評論 等 作文の応用
3 学期	現代文：詩歌等 文学史

③ 評価の方法

- （１）定期考査（年５回）
- （２）漢字テスト および 課題テスト
- （３）授業への意欲、態度
- （４）提出物（ノート、プリント等）
- （５）出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- （１）様々な文章に触れることで「考える力」を培う。
- （２）自分の考えを指定されたスペースの中で表現できるようにする。
- （３）日本の代表的な文学作品とその作者についての知識を身につける。

教科名	地歴	科目名	日本史 A
単位数	2 単位	履修年次・条件	第 3 学年・必修
教科書等	高等学校 改訂版 日本史 A 人・くらし・未来（第一学習社）		

① 学習の目標

- (1) 我が国の歴史を世界史的視野に立って考えさせ、歴史の基本的事項を理解させる。
- (2) 我が国の文化と伝統や地域の歴史への関心を深め、歴史的思考力を培いこれからの国際社会を主体的に生きる日本人に必要な基本的教養を身に付けさせる。

② 授業の内容

1 学期	学習のねらい：原始・古代・中世・近世の歴史を概説的に学び日本の成立について考察する。
2 学期	学習のねらい：近・現代の歴史を学び、今後の国際社会の中での日本の役割や在り方について考える。 近代：開国と明治維新、近代国家の成立と日清・日露戦争、近代産業の発達と国民生活、資本主義の確立と政党、第一次世界大戦と日本、大正デモクラシー、政党政治の発展と金融恐慌、昭和恐慌、満州事変と五・一五事件、日中戦争、第二次世界大戦と国民
3 学期	学習のねらい：近・現代の歴史を学び、今後の国際社会の中での日本の役割や在り方について考える。 現代：戦後改革と国民生活の変化、国際社会の動向と経済の発展、現代の社会と日本

③ 評価の方法

- (1) 出席状況 (2) 毎時間の授業への取り組み (3) 授業ノート
(4) 提出物（プリント） (5) 定期テスト

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

ノートは、学期ごとに提出させますので、毎時間しっかり作成すること。

教科名	公民	科目名	政治経済
単位数	2単位	履修年次・条件	第3学年・必修
教科書等	高等学校 新政治・経済 新訂版（清水書院）		

① 学習の目標

- (1) 憲法によって様々な権利が保障され、国民がより良い生活ができること、国民の権利を保障するための政治が民主主義であること。
- (2) 民主主義は人類の多年にわたる努力と犠牲の上に獲得されたものであること。
- (3) 政治をより良いものにするために、現実を批判的に見る目を養うと同時に、他人の権利も尊重する態度を養うこと。
- 以上の3点を中心とした学習をする。

② 授業の内容

1 学期	政治権力と国家、国家と主権、民主政治の発達と市民革命、人権保障の思想、人権宣言と憲法 中間審査
	自由権、社会権、権利と義務、国民主権、参政権の意義、権力分立の原理、間接民主政治、ファシズム、明治憲法の特徴、明治憲法下の政治、日本国憲法の成立 期末審査
2 学期	日本国憲法の特徴、国民主権、象徴天皇制、不可侵の権利、自由権、平等権 中間審査
	社会権、参政権、請求権、平和主義、国会、内閣 期末審査 課題 憲法前文と権利の条文の書き取り
3 学期	裁判所、選挙、地方自治、憲法で保障された権利の復習 学年末審査

③ 評価の方法

- (1) 授業ノート (2) 定期審査 (3) 課題
- (4) 出席状況および授業態度 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 国民としてこれだけはしっかり学んでほしい部分に対し時間をかけて学習する。
- (2) 現実の日本の政治、経済、社会、国際社会の問題にも目を向けること。
- (3) ノートは必ず提出すること。平常点とする。

教 科 名	理 科	科 目 名	物 理 基 礎
単 位 数	2 単 位	履修年次・条件	第 3 学 年 ・ 選 択 必 修
教科書等	改訂 新編 物理基礎（東京書籍）		

① 学習の目標

- (1) 基礎的な知識、技能を身につけ、それらを生活の中で活かすことができる。
- (2) 自然の事物・現象に興味をもち、科学的に探究することができる。
- (3) 主体的に学ぶことができる。

② 授業の内容

1 学期	(1) 物体の運動とエネルギー (直線運動の世界、力と運動の法則、仕事とエネルギー)
2 学期	(1) 物体の運動とエネルギー（仕事とエネルギー） (2) さまざまな物理現象とエネルギー（熱、波、電気）
3 学期	(1) さまざまな物理現象とエネルギー（エネルギー）

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（5回）
- (2) 授業中の取り組み
- (3) 提出物
- (4) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業はプリントで行う。
- (2) 授業には積極的に参加すること。
- (3) 提出物は期限を守って提出すること。

教科名	理科	科目名	地学基礎
単位数	2単位	履修年次・条件	第3学年・選択必修
教科書等	高等学校 改訂 地学基礎（第一学習社）		

① 学習の目標

- (1) 基礎的な知識、技能を身につけ、それらを生活の中で活かすことができる。
- (2) 自然の事物・現象に興味をもち、科学的に探究することができる。
- (3) 主体的に学ぶことができる。

② 授業の内容

1 学期	(1) 宇宙における地球 (2) 活動する地球
2 学期	(1) 活動する地球 (2) 移り変わる地球 (3) 大気と海洋
3 学期	(1) 大気と海洋

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（5回）
- (2) 授業中の取り組み
- (3) 提出物
- (4) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業はプリントで行う。
- (2) 授業には積極的に参加すること。
- (3) 提出物は期限を守って提出すること。

教 科 名	保健体育	科 目 名	体 育
単 位 数	3 単 位	履修年次・条件	第 3 学 年 ・ 必 修
教科書等	最新高等保健体育〔改訂版〕（大修館書店）		

① 学習の目標

- (1) 約束事やルールを守る態度を身につける。
- (2) 進んで運動ができるようになるための方法を身につける。
- (3) 低下傾向にある体力を向上させる。
- (4) 楽しく運動を行い、生涯を通じて運動に親しむ態度を育てる。

② 授業の内容

1 学 期	体づくり運動（体力を高める運動、体ほぐしの運動） 新体力テスト（50 m 走・持久走・ハンドボール投げ等） 選択Ⅰ（ソフトテニス・バドミントン・卓球） 体育理論
2 学 期	選択Ⅱ（マット運動・陸上競技の中から選択） 持久走（サーキットトレーニング・3 k m コース周回） 選択Ⅲ（ラグビー・ハンドボールの中から選択） 体育理論
3 学 期	選択Ⅳ（バスケットボール・卓球の中から選択） 体育理論

③ 評価の方法

- (1) 出席状況
- (2) 授業への参加態度
- (3) ルールやマナーの理解
- (4) 課題の達成度・実技テスト

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 配布された『体育授業等確認事項』を十分に理解し、ルールやマナーを守り、安全に意欲的に授業に取り組めるようすること。
- (2) 課題の達成が不十分な場合は完全に終了するまで補充する。
- (3) 健康上の理由で見学する場合でもできることは積極的に参加すること。

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ
単位数	3単位	履修年次・条件	第3学年・必修
教科書等	VISTA English Communication Ⅱ New Edition (三省堂)		

① 学習の目標

- (1) リスニングや発音練習を通して正確な発音・イントネーションを身につける。
- (2) 2000語程度の基本の英単語を習得し、使えるようにする。
- (3) 1・2年次に習得した読解力を活かし、より高度な内容の読み物を理解できるようにする。
- (4) 教材を通して文法知識や語彙の強化を図る。
- (5) (1)～(4)を通して、より発展的なコミュニケーション能力を身につける。

② 授業の内容

1学期	Lesson 3 The Sagrada Familia Lesson 4 Nobel Prize Episodes 英語マスターノート (20～27)	名詞を修飾する分詞 知覚動詞・tell～to do
2学期	Lesson 5 Flowers in the Tomb Lesson 6 Becoming the Best 英語マスターノート (28～36)	使役動詞・関係代名詞 what how to do・It seems that～
3学期	Lesson 7 The Galapagos Islands	現在完了進行形・ 形式目的語 it

③ 評価の方法

- (1) 定期考査 (5回)
- (2) 小テスト
- (3) ノート・その他の提出物
- (4) 出席状況・授業への意欲・態度

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業内容がより理解できるように復習に取り組む。
- (2) 積極的な態度で授業に臨むこと。
- (3) 英語の4技能 (読む・書く・聞く・話す) を活かし、より発展的なコミュニケーション能力を身につける。

教科名	家庭科	科目名	家庭総合
単位数	2単位	履修年次・条件	第3学年・必修
教科書等	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）		

① 学習の目標

- (1) 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に学ぶ。
- (2) 家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

② 授業の内容

1 学期	(1) 食生活の科学と文化 (ア) 人の一生と食事
2 学期	(イ) 食生活の自立と調理 (ウ) 食生活の文化
3 学期	(エ) 食生活と環境 (2) 住生活の科学と文化

③ 評価の方法

- (1) 出席状況
- (2) 授業への意欲、態度
- (3) 提出物
- (4) 定期考査（3回）

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 学習した知識、技術を実生活に生かせるよう取り組むこと。
- (2) 出席状況、提出物等に注意すること。
- ※ 1学期中に、皆野幼稚園で保育実習を実施予定

教 科 名	商 業	科 目 名	課 題 研 究 (簿 記)
単 位 数	3 単 位	履修年次・条件	第 3 学 年 ・ 選 択 必 修
教 科 書 等	簿記検定問題集 全商会計 (実教出版)		

① 学習の目標

- (1) 企業会計の役割・制度及び財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。
- (2) 財務諸表の意味や役割について理解する。
- (3) 財務諸表から得られる情報を活用する能力と態度をのばす。
- (4) 個々の資格目標級を学習し、修得する

② 授業の内容

1 学 期	(1) 個々の資格級の演習 仕訳・計算・財務諸表・補助簿 〈中間考査〉 全商簿記検定受験 〈期末考査〉
2 学 期	(1) 個々の資格級の演習 仕訳・計算・財務諸表・補助簿 〈中間考査〉 〈期末考査〉
3 学 期	(1) 総合演習 全商簿記検定受験 (希望者) 〈学年末考査〉

③ 評価の方法

- | | |
|-----------------|-------------------|
| (1) 定期考査 | (2) 課題に対する意欲・態度 |
| (3) 宿題に対する意欲・態度 | (4) 資格取得に対する意欲・態度 |
| (5) 出席状況等 | 以上を総合的に評価する。 |

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業中の学習態度、提出物に対する意欲を重視する。
- (2) 簿記検定については、個々の目標級を受験する。

教 科 名	商 業	科 目 名	課 題 研 究 (流 通)
単 位 数	3 単 位	履修年次・条件	第 3 学 年 ・ 選 択 必 修
教科書等	なし		

① 学習の目標

課題解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の進化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身に付ける。

② 授業の内容

1 学 期	(1) ガイダンス ・ 研究課題の設定を行う。 (2) 調査・研究・実験 ・ 研究課題に対する調査・研究及び実験等を行う。
2 学 期	(3) 作品制作 ・ 研究課題及び、調査研究結果を基に作品制作を行う。 (4) 実習 ・ 産業現場における実習（販売実習・接客実習等）を行う。
3 学 期	(5) 成果発表

③ 評価の方法

- | | |
|-----------------|--------------|
| (1) 課題提出 | (2) 意欲・態度 |
| (3) 実習に対する意欲・態度 | (4) 出席状況等 |
| (5) 成果発表 | 以上を総合的に評価する。 |

④ 学習を進めるうえでの留意点

- | |
|-----------------------------|
| (1) 授業中の学習態度、課題に対する意欲を重視する。 |
| (2) 設定された実習に必ず参加すること。 |

教 科 名	商 業	科 目 名	課 題 研 究 (I T パ ス ポ ー ト)
単 位 数	3 単 位	履修年次・条件	第3学年・商業科目 選択必修
教科書等	I T パ ス ポ ー ト 試 験 テ キ ス ト & 問 題 集		

① 学習の目標

職業人が共通して備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識と技術を学習する。

② 授業の内容

1 学 期	(1) P C を使うための必要な技術 ①マルチメディア ②データベース ③ネットワーク ④コンピュータシステム ⑤情報セキュリティ (2) 経営管理 ①システム開発技術 ②ソフトウェア開発管理技術 ③プロジェクトマネジメント ④システム監査 (3) コンピュータシステム ①アルゴリズムとプログラミング ②コンピュータ構成要素 ③ヒューマンインタフェース I T パ ス ポ ー ト 試 験 受 験
2 学 期	(4) 企業と法務 ①経営と組織 ②会計と財務 ③法務 ④セキュリティ ⑤労働関連法 (5) 経営戦略 ①経営戦略手法 ②マーケティング ③経営管理システム ④システム戦略・企画 (6) 総合演習 ①部門別演習 ②総合（過去問）演習 I T パ ス ポ ー ト 試 験 受 験
3 学 期	(7) 総合演習 ①総合（過去問）演習 I T パ ス ポ ー ト 試 験 受 験

③ 評価の方法

(1) 定期考査 (2) 授業、課題に対する意欲・態度
(3) 提出物 (4) 出席状況等 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

(1) 授業中の学習態度、提出物に対する意欲を重視する。
(2) I C T 活用・情報処理検定試験1級を学習した者が望ましい。

教 科 名	商 業	科 目 名	総 合 実 践
単 位 数	4 単 位	履修年次・条件	第 3 学 年 ・ 必 修
教科書等	新 版 総 合 実 践 （ 実 教 出 版 ）		

① 学習の目標

商業の各分野に関する知識と技術を実践的学習により総合的に習得させ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行う能力と態度を育てる。

② 授業の内容

1 学 期	(1) 職業意識と就職 就職・進学へ向けてのガイダンスや試験対策など
2 学 期	(2) 文書に関する業務 売買に伴う各種文書の作成 (3) 売買に関する業務 仕入に伴う各種の受注業務の学習 販売に伴う各種の発注業務の学習 (4) 取引演習 仕入・販売取引の総合取引演習
3 学 期	(5) 取引演習 総合取引演習のまとめ

③ 評価の方法

- (1) 1 学期 期末考査・課題提出
- (2) 提出物に関する意欲・態度
- (3) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業中の学習態度、提出物に対する意欲を重視する。
- (2) 丁寧なだけでなく素早い事務処理を目指して学習する。
- (3) ファイリング能力を育成する。

教 科 名	商 業	科 目 名	経 済 活 動 と 法
単 位 数	3. 単 位	履修年次・条件	第 3 学 年 ・ 必 修
教科書等	経 済 活 動 と 法 新 訂 版 （ 東 京 法 令 出 版 ）		

① 学習の目標

- (1) 将来社会人となり、社会生活を秩序正しく営むためには一定のルールが必要となる。その中心が法であることを理解する。
- (2) 経済生活とそれに関わる各種の法の存在を把握し、将来の経済生活に役立てる。

② 授業の内容

1 学 期	第 1 章 法 の 意 義 と 役 割 第 1 節 社会生活と法 第 2 節 法 の 分 類 第 3 節 法 の 存 在 形 式 第 4 節 法 の 適 用 と 解 釈 第 2 章 権 利 ・ 義 務 と 財 産 権 第 1 節 権 利 ・ 義 務 と そ の 主 体 第 2 節 物 件 と 債 権 第 3 節 知 的 財 産 権
2 学 期	第 3 章 契 約 と 債 権 第 1 節 契 約 と 意 思 表 示 第 2 節 売 買 契 約 と 賃 貸 借 契 約 第 3 節 債 権 の 管 理 と 回 収 1 債 務 不 履 行
3 学 期	第 5 章 企 業 の 責 任 と 法 第 3 節 消 費 者 保 護

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（年 5 回）
- (2) 提出物等の状況
- (3) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

私たちの身の回りに起こる権利、義務に関わる事象を、法に照らし合わせて解決する知識について、よく理解すること。

教科名	国語	科目名	国語表現
単位数	3単位	履修年次・条件	第3学年・選択科目
教科書等	国語表現 改訂版（教育出版）		

① 学習の目標

- (1) 文章を書くときの基礎をしっかりと身につける。
- (2) 読書を通じて、読解力を付ける。
- (3) 自分の考えを指定されたスペースの中で表現できるようにする。

② 授業の内容

1 学期	基礎編 単語レベルから、文の構成を再確認する。 文章の要約 評論文の内容を理解し、要点をまとめて書く力を養う。
2 学期	応用編 様々なテーマに沿った小論文を書く。
3 学期	実践編 進路に合わせた小論文を書く。

③ 評価の方法

- (1) 定期考査 またはそれに代わるもの
- (2) 授業への意欲、態度
- (3) 提出物（作文、小論文、プリント、等）
- (4) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

この講座では、進学希望者の受験対策だけでなく、就職希望者の面接等に必要も含めて指導している。

自己表現に必要なスキルを身につけてほしい。

高校生の地理 A (帝国書院)
標準高等地図-地図でよむ現代社会-(帝国書院)

(1) 教材の内容及び用語の理解と習得を目指す。
(2) 地理的な理解方法と問題解決方法を身につけさせる。
(3) 上記(1)(2)によって得られた知識・技能・思考方法の発展的応用を目指す。

(3) 地球規模で広がる課題
世界の人口問題、食料問題、資源・エネルギー問題、都市問題、環境問題

(1) 授業ノート (2) 定期考査
(3) 課題を出した場合は、それも評価に含める。
(4) 出席状況及び授業態度 以上を総合的に評価する。

(1) 白地図を使用した作業や統計資料をもとにグラフを作成する。地図帳や色鉛筆など指定された物を用意すること。

(2) 作業プリントは評価の対象とする。必ず提出すること。

教科名	数学	科目名	数学活用
単位数	3単位	履修年次・条件	第3学年・選択科目
教科書等	数学活用（実教出版）		

① 学習の目標

- (1) 数学と人間とのかかわりや、社会生活において数学が果たす役割について学ぶ。
- (2) 数学に対する興味・関心を高めるとともに、中学校や高校1年、2年で学んだ数学を基盤にして数学的な見方や考え方について理解する。

② 授業の内容

1 学期	進路に向けて中学校から高校2年までの数学の基本的な内容を復習する。
2 学期	1 章 身の回りの数学 2 章 社会生活と数学 社会生活において、数学が活用されている場面や実生活における身近な事柄について学ぶ。
3 学期	3 章 数学と人間 数学的な話題を取り上げて、数学の発展と人間の活動とのかかわりを学ぶ。

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（年5回）
- (2) 各授業における意欲・態度・出席状況等

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

各授業で学習した内容の理解度を定期考査等で確認する。そのために、毎回の授業を大切にして意欲を持って臨むこと。

数学基礎を学び数学的な考え方を理解して、世の中を生きていくための一つの力にすることを期待する。

教科名	英語	科目名	英語表現Ⅱ
単位数	3単位	履修年次・条件	第3学年・選択科目
教科書等	NEW ONE WORLD Expressions Ⅱ Revised Edition (教育出版)		

① 学習の目標

スピーキングとライティングの力をつけることを目標とする。聞いたり読んだりした内容を踏まえて、自分の考えなどを話したり書いたりする事ができるようにする。その事を通して自分自身の思考力や相手に伝える力を身につける。

② 授業の内容

1 学期	Lesson1 Let Me Introduce Our New ALT Lesson2 He Has Been Playing Tennis Lesson3 Arriving in 15 Minutes Lesson4 You Had Better Talk to Her Now. Program1 Would you Do Me a Favor? Program2 Why Don't You Come and See Me? Program3 This Is to Let You Know. Program4 Because He Can Relax with Her Program5 This Tablet Is Designed for Overseas Use
2 学期	Lesson5 What Is Being Built in Front of the Station? Lesson6 Do You Mind My Using Your Dictionary? Lesson7 Let Me Take a Look at It Lesson8 Carelessly, He Broke a Window Program6 Congratulations! Program7 What Would You Like To Be In the Future? Program8 What Are You Going to Do Next Weekend? Program9 I'm Not Sure, But It's True
3 学期	Lesson9 I Seldom Go Out on Weekends Lesson10 This Book Shows You How to Make Good Choices Lesson11 It is Amazing That Michael Can Solve Problems

③ 評価の方法

- (1) 定期考査 (5回)
- (2) 小テスト
- (3) ノート・その他の提出物
- (4) 出席状況・授業への意欲及び態度 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 授業内容がより理解できるように復習に取り組む。
- (2) 積極的な態度で授業に臨むこと。
- (3) 日本語においても、自己表現できるように心掛ける。

教 科 名	商 業	科 目 名	ビジネス経済
単 位 数	3 単位	履修年次・条件	第 3 学 年 ・ 選 択 科 目
教科書等	ビジネス経済（実教出版）		

① 学習の目標

ビジネスに必要な経済に関する基礎的な知識を習得させ、経済の仕組みや概念について理解させるとともに、経済事象を主体的に考える能力と態度を育てる。

② 授業の内容

1 学期	(1) ビジネスと経済 ア 市場とビジネスの成立 イ 市場経済と計画経済 (2) 需要と供給 ア 需要の概念と需要の変化 イ 供給の概念と供給の変化
2 学期	(3) 価格決定と市場の役割 ア 価格決定の仕組み イ 市場の役割と課題 (4) 経済成長と景気循環 ア 国内総生産と物価 イ 経済成長とその要因 ウ 景気循環とその指標 エ 国際化と景気変動
3 学期	(5) 経済政策 ア 財政政策 イ 金融政策

③ 評価の方法

- (1) 定期考査（年 5 回）
- (2) 提出物の状況
- (3) 出席状況

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- ・ 経済やビジネスの動向に興味関心を持つ姿勢を大切にする。
- ・ 地域産業の振興など、サービス経済社会に適切に対応する能力と態度を身に付ける。

教 科 名	商 業	科 目 名	財 務 会 計 Ⅱ
単 位 数	3 単 位	履修年次・条件	第 3 学 年 ・ 選 択 科 目 2 年 次 会 計 ユ ニ ッ ト 選 択 者
教 科 書 等	使える財務会計Ⅱ（ネットスクール出版）		

① 学習の目標

財務諸表の作成に関する知識と技能を習得させ、会計責任を果たすことの重要性について理解させるとともに、会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。

② 授業の内容

1 学 期	(1) 財務会計の基本概念と会計基準 (2) 貸借対照表に関する会計	〈 中 間 考 査 〉 〈 期 末 考 査 〉
2 学 期	(1) キャッシュ・フロー計算書 (2) 企業集団の会計	〈 中 間 考 査 〉 〈 期 末 考 査 〉
3 学 期	(1) 財務諸表の活用	〈 学 年 末 考 査 〉

③ 評価の方法

- (1) 定期考査
- (2) 課題に対する意欲・態度
- (3) 宿題に対する意欲・態度
- (4) 出席状況等

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

授業中の学習態度、提出物に対する意欲を重視する。

教 科 名	商 業	科 目 名	電 子 商 取 引
単 位 数	3 単 位	履修年次・条件	第 3 学 年 ・ 選 択 科 目
教 科 書 等	電 子 商 取 引 新 訂 版 （ 東 京 法 令 出 版 ）		

① 学習の目標

- (1) 情報通信技術をビジネス活動に応用する能力、インターネットを活用してビジネスを展開する力を身に付ける。
- (2) 入力技術を身に付け、情報化社会に対応できる力を養う。

② 授業の内容

1 学期	入力技術の向上 ・ビジネス文書実務検定試験 2 級程度の入力速度を目指した練習を行う。 ・ビジネス文書実務検定試験 1、2 級以上の文書作成技術を身に付ける。 * 実技科目としての側面を有しているため、入力技術能力の向上に主眼を置く ビジネス文書実検定試験を受験 実技試験（筆記試験を行う場合あり）
2 学期	入力技術の向上 ・ビジネス文書実務検定試験 2 級程度の入力速度を目指した練習を行う。 ・ビジネス文書実務検定試験 1、2 級以上の文書作成技術を身に付ける。 * 実技科目としての側面を有しているため、入力技術能力の向上に主眼を置く ビジネス文書実検定試験を受験 実技試験（筆記試験を行う場合あり）
3 学期	1. 電子商取引とビジネス 2. ウェブデザイン 3. 実技試験（実施しない場合もある）

③ 評価の方法

- | | |
|-----------------|----------|
| (1) 考査 | (2) 出席状況 |
| (3) 授業に対する意欲・態度 | (4) 課題提出 |
- 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 年 2 回の検定では 1 級もしくは 2 級を受験する。
- (2) 実技科目としての側面を理解し、技術の向上を目指し、目標をしっかりと持ち学習できるよう留意すること。
- (3) 提出物を確実に提出できるようにすること。

教 科 名	商 業	科 目 名	ビジネス情報管理 (情報処理科決定科目)
単 位 数	3 単 位	履修年次・条件	第3学年・情報処理科必修科目
教科書等	ビジネス情報管理（実教出版）		

① 学習の目標

情報通信ネットワークやビジネス情報システムに関する知識と技術を習得させ、ビジネスの諸活動において情報を管理し、共有することの意義や必要性を学習し、業務の合理化を推進する能力を育てる。

② 授業の内容

1 学期	(1) ビジネスと情報システム ① ビジネスと情報の共有 ② セキュリティ管理 ③ 情報システムと業務の合理化 (2) 情報通信ネットワークの構築と運用管理 ① 情報通信ネットワークの仕組みと通信方法 ② ネットワーク機器の種類と機能 ③ 情報通信ネットワークの設計 ④ ハードウェアとソフトウェアの導入
2 学期	⑤ 運用管理 ⑥ ビジネス周辺機器の活用 (3) ビジネス情報システムの開発 ① 販売情報の分析と結果 ② 財務情報の分析と活用 ③ システム開発の手法・手順 9月におこなわれる情報処理検定1級を受験
3 学期	(4) 総合演習 ① ネットワーク・システム開発手順 1月におこなわれる情報処理検定1級を受験

③ 評価の方法

- | | |
|---------------|----------|
| (1) 定期考査（年5回） | (2) 実技試験 |
| (3) 出席・態度・意欲 | (4) 課題提出 |
- 以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 学習態度や提出物などに対する意欲を重視する。
- (2) 情報を合理的に処理し、コンピュータを効果的に活用する能力と態度を身に付けるよう心がける。

教科名	家庭科	科目名	生活と福祉
単位数	3単位	履修年次・条件	第3学年・選択科目
教科書等	生活と福祉（実教出版）		

① 学習の目標

高齢者の健康と生活、介護などに関する知識と技術を習得させ、高齢者の生活の質を高めるとともに、自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を育てる。

② 授業の内容

1 学期	(1) 健康と生活 (2) 高齢者の自立生活支援と介護
2 学期	(3) 高齢者福祉の制度とサービス
3 学期	(4) 生活援助の介護の実習

③ 評価の方法

- (1) 出席状況
- (2) 授業への意欲、態度
- (3) 提出物（感想文等）
- (4) 定期考査（3回）

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 学習した知識、技術を実生活に生かせるよう取り組むこと。
- (2) 出席状況、提出物等に注意すること。
- ※ 夏休み中、実習を実施予定

教科名	家庭科	科目名	フードデザイン
単位数	3単位	履修年次・条件	第3学年・選択科目
教科書等	フードデザイン cooking&arrangement（教育図書）		

① 学習の目標

- (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得する。
- (2) 食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。

② 授業の内容

1 学期	(1) 食生活の充実、向上 (2) 健康に必要な栄養素
2 学期	(3) 食品の加工 (4) 調理の基本、応用
3 学期	(5) 食卓作法とテーブルコーディネート (6) 食育の推進

③ 評価の方法

- (1) 出席状況
- (2) 授業への意欲、態度
- (3) 提出物
- (4) 定期考査（3回）

以上を総合的に評価する。

④ 学習を進めるうえでの留意点

- (1) 学習した知識、技術を実生活に生かせるよう取り組むこと。
- (2) 出席状況、提出物等に注意すること。